

石神遺跡の調査(飛鳥藤原第122次)

飛鳥寺の北西に位置する石神遺跡^{いしがみ}は、1981年以來14次におよぶ発掘調査により、斉明朝(655～661)を中心とした饗宴施設と考えられています。今回の調査は石神遺跡の北限とみられる東西溝(2000・2001年度に検出)以北の状況や、藤原京の条坊道路との関係を明らかにすることを目的としています。

調査区はおよそ東西30m、南北20mで7月から調査を開始しました。しかし調査区内での湧水が思いのほか激しいために、遺構を検出するのも困難で悪戦苦闘の日々が続いています。石敷なども顔をのぞかせ始めましたが、今のところその性格は不明です。周囲の排水溝を掘り下げた際に天武朝ころの木簡や削り屑を含む木屑層の堆積を確認しており、今後の調査の進展が楽しみです。調査は10月以降も継続する予定です。

(飛鳥藤原宮跡発掘調査部 奥村直紀)